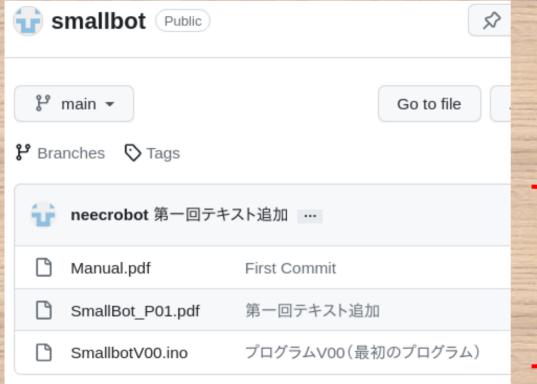
ロボットプログラミング#3



SmallBotを動かそう

- ・前回の復習
- ・マクロ(#define)の利用
- ・ライントレースさせてみよう

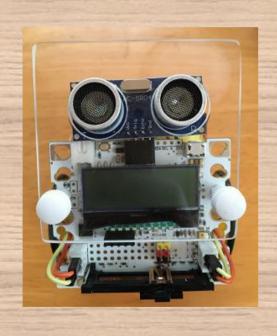
マニュアルやプログラム類は githubに置いてあります



置いてあるファイル はクリックして ダウンロード可

https://github.com/neecrobot/smallbot

前回のおさらい C言語をちょっとだけ





まずはこれだけ

▪ 整数型変数(int型) <宣言>

int data; int data = 0; // 初期化あり

<代入>

data = 3; data = data+4; ・ 条件判断と分岐

< if 文> if (data == 3) {

条件成立時の処理

} else {

条件不成立時の処理

== 等しい

等しくない

> > —

左辺> 右辺 左辺≧ 右辺 < 左辺<右辺

<= 左辺≦右辺

if() ... else if()... else

```
if (data == 3) {
 data = 2;
if (data == 2) {
  data = 3;
=> 3の時も3になってしまう
```

```
if (data == 3) {
 data = 2;
} else if (data == 2) {
  data = 3;
} else {
  data = 0;
3のときは 2
2のときは 3
それ以外なら0
```

動かしてみよう

(SmallbotV20.ino)

```
SmallBotV20 | Arduino 1.8.19
ファイル 編集 スケッチ ツール ヘルプ
                                   Ø
 SmallBotV20
void loop() {
  if (dir == 0) { // dirが0だった。
    // モータスピード設定
    analogWrite(M1 PWM, 80); // 右三
    analogWrite(M2 PWM, 120); // 左=
  } else {
    // モータスピード設定
    analogWrite(M1 PWM, 120); // 右目
    analogWrite(M2 PWM, 80); // 左-
```

GithubのV20.ino をコピー&ペースト して実行してみよう



変数とif文の利用(V20.inoから抜粋)

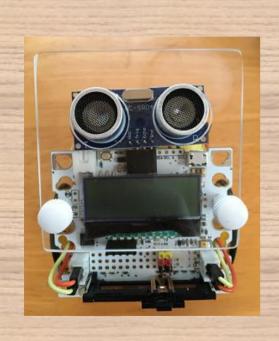
左右交互に繰り返し

```
int dir = 0;
void loop() {
  if (dir == 0) { // dirが0
    analogWrite(M1_PWM, 80);
    analogWrite(M2_PWM, 120);
    dir = 1; // 次は左回転
  }
```

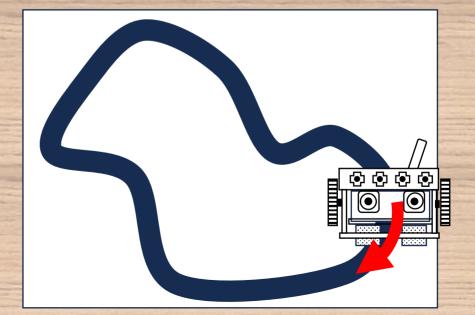
```
else {
    analogWrite(M1_PWM, 120);
    analogWrite(M2_PWM, 80);
    dir = 0; // 次は右回転
    }
    delay(1000); // 1秒待つ
}
```

変数dirが0なら 右回転に設定 dirの値を1にする 変数dirが0でないなら 左回転に設定 dirの値を0にする

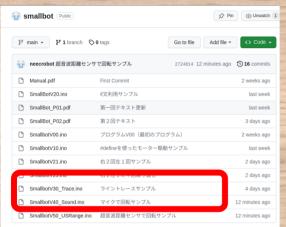
前回のおさらいー2



・フォトセンサを使った ライントレース



動かす&調整してみよう

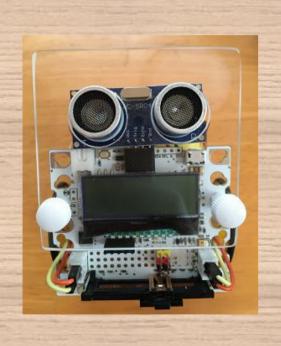


SmallBotV30_Trace.inoをベースにする=>回転半径を小さくする=>モーターの回転速度の調整



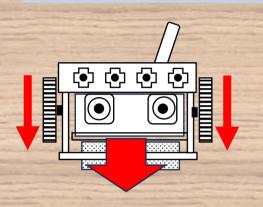
https://github.com/neecrobot/smallbot

今回のネタ

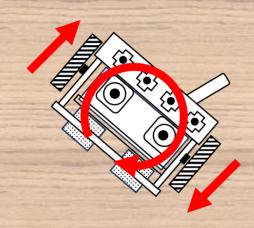


- ・音声入力(拍手)で方向転換
- ・超音波センサ(壁検出)で方向転換

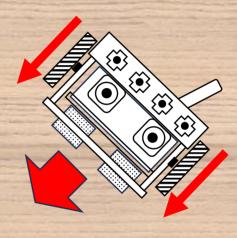
本日のネタ(その1)音声入力(拍手)で方向転換









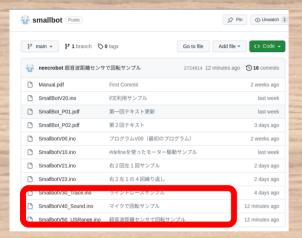


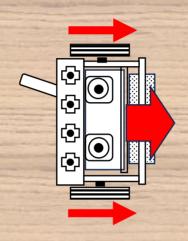


その場で方向転換(超信地旋回)

再び直進

動かしてみよう (SmallbotV40_Sound.ino)











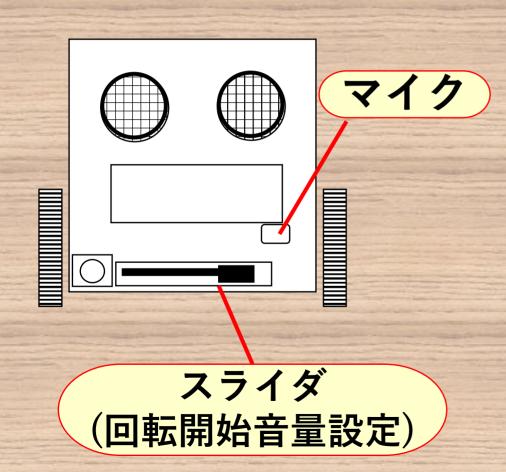
SmallbotV40_Sound.ino

マイクで回転サンプル

https://github.com/neecrobot/smallbot

動作のポイント

(SmallbotV40_Sound.ino)



マイクから入力された音声 の大きさとスライダで設定 したレベルを比較

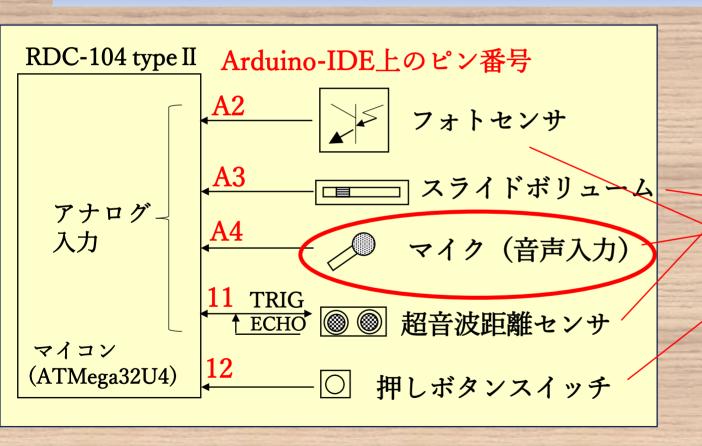
マイク音量が小さい

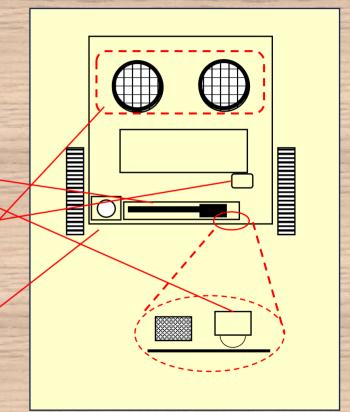
=>直進

マイク音量が大きい

=>方向転換(右旋回)

入力信号の接続(参考)

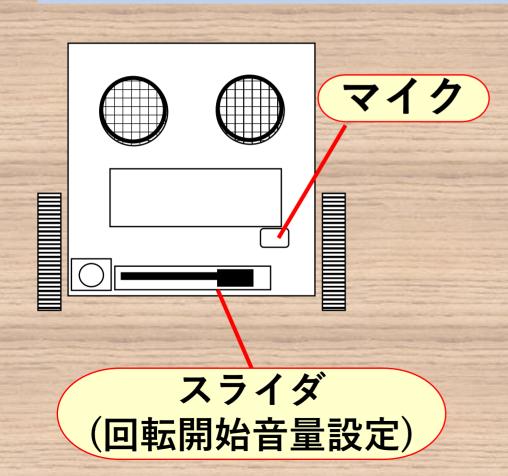




プログラムのポイント

```
// 音声レベルを取得
insound = analogRead(A4);
if (SoundLevel < insound) {
                           // 音が今までより大きかったら
 SoundLevel = insound;
                           // レベル更新
} else if (RState == RBT MEASURE) { // 音声を計測
 sliderValue = analogRead(A3)/3; // スライダ値を取得して
 if (sliderValue < SoundLevel) { // マイクの音声が大きい
  RState = RBT ROT;
                             // 回転
                             // マイクの音声が小さい
 } else {
                             // 前進
  RState = RBT FORWARD;
 SoundLevel = 0;
                            // 最大音量をクリア
```

改造してみよう



マイクから入力された音が

- 小さい時:回転

・大きい時:直進

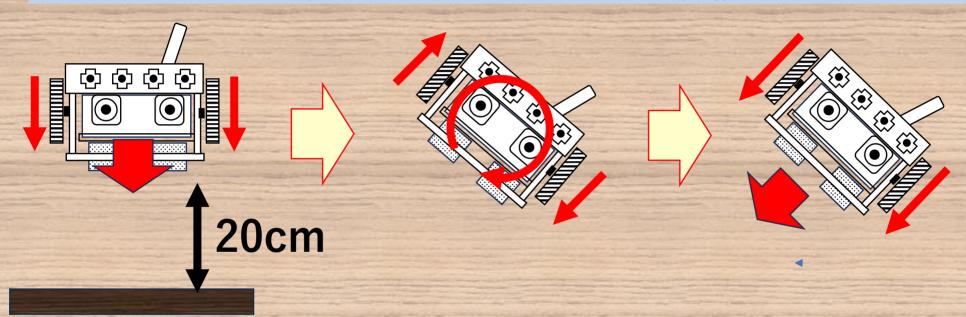
(手を叩かれると進む)

前に進む距離をTimer変数

で調整しよう

本日のネタ (その2)

超音波距離センサで方向転換

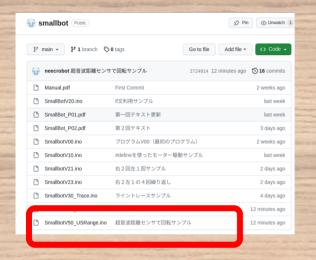


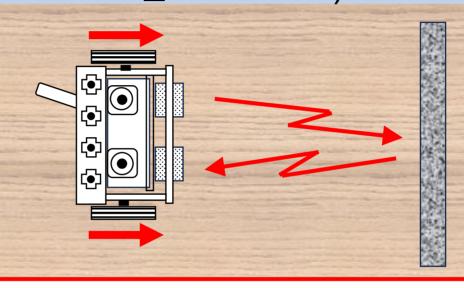
障害物に20cm まで接近

その場で方向転換(超信地旋回)

再び直進

動かしてみよう (SmallbotV40_Sound.ino)





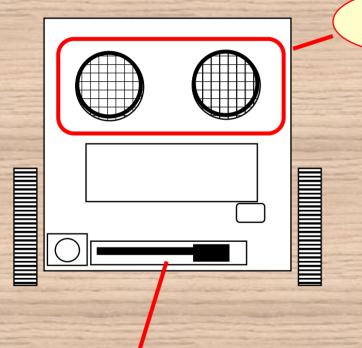
SmallbotV50 USRange.ino 超音波距離センサで回転サンプル

https://github.com/neecrobot/smallbot

動作のポイント

(SmallbotV50_USRange.ino)





旋回時間調整

超音波距離センサで反射物までの距離を測定

20cm以上:

=>直進

20cm以下:

=>旋回

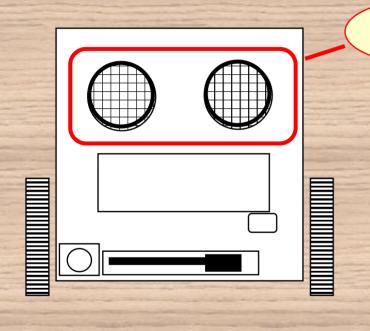
旋回時間はスライダで調整

距離計測

```
pinMode(PING PIN, OUTPUT); // 出力モードに設定して
digitalWrite(PING_PIN, LOW);
                             // 'L'にして
delayMicroseconds(2)
                             // 2μs待つ
digitalWrite(PING_PIN, HIGH);
                             // 'H'にして
delayMicroseconds(5);
                             // 5μs待つ
digitalWrite(PING PIN, LOW);
                             // 'L'に戻す
pinMode(PING PIN, INPUT); // 入力にして
duration = pulseIn(PING_PIN, HIGH); // パルス時間計測
cm = duration / 29 / 2; // 距離をcmに直す(1cmあたり約29 <math>\mus)
```

測定結果で分岐

改造してみよう



超音波距離センサ

手を近づけると寄ってくる

20cm以上:旋回

20cm以下: 直進

1回あたりの旋回時間を変えるとどうなるでしょう?

来週は自由製作

(複数台使うのも可)



- 1) ライントレースタイムアタック コースをスムーズに曲がれるように調整
- 2) ロボット双六?
 - n = random(1,6); // 1~6の乱数生成で、n本目の黒線やn回目の拍手で停止
- 3) 迷路脱出(フォトセンサ/超音波センサ)
- 4) 先頭のロボットを見つけて追いかける など
 - ※うまくいかなくても頑張ればOK※

